

**平成 24 年度 文部科学省
学びを通じた被災地の
地域コミュニティ再生支援事業
報告書**

2013 年 3 月 29 日

大船渡市 “デジタル公民館” まっさき 運営協議会

平成 24 年度「学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業」報告書
大船渡市“デジタル公民館”まっさき 運営協議会

目 次

| | | |
|---|------------------------------------|----|
| 1 | 事業名：大船渡市“デジタル公民館”まっさき | 2 |
| 2 | 大船渡市末崎町 地域の状況・仮設住宅数（震災後） | 5 |
| 3 | 大船渡市“デジタル公民館”まっさき 運営協議会の活動 | 6 |
| 4 | デジタル公民館ネット環境の整備 | 29 |
| 5 | 被災地住民とボランティアが世代を超えてコミュニケーション | 32 |
| 6 | 被災地の課題 | 34 |
| 7 | 今後の展望 | 36 |



デジタル公民館まっさき <http://www.massaki.jp/>

1 事業名：大船渡市“デジタル公民館”まっさき

実施団体名：大船渡市“デジタル公民館”まっさき 運営協議会

(1) 委員名：(敬称略)

代表 久保田了司(財団法人高度映像情報センター理事 霞が関ナレッジスクエア代表)

副代表 近藤均(大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)館長)

委員 木川田大典(大船渡市教育委員会生涯学習課長)

委員 豊重哲郎(鹿児島県鹿屋市串良町柳谷(やねだん)自治公民館館長)

委員 池本修悟(特定非営利活動法人 NPO 事業サポートセンター専務理事)

委員 堀池喜一郎(好齢ビジネスパートナーズ世話人／武蔵野三鷹 どこ竹@竹とんぼ教室
顧問)

委員 吉田敦也(NPO 法人いきいきネットとくしま理事長／徳島大学地域創生センター長)

委員 伊庭野基明(財団法人高度映像情報センター理事／グローバルキャリアカウンセラー)

委員 伊藤健二(慶應義塾大学大学院政策メディア研究科特任准教授)

委員 丸山修(財団法人高度映像情報センター 霞が関ナレッジスクエア事務局)

(2) 委員の役割(敬称略)

・久保田了司(財団法人高度映像情報センター理事・霞が関ナレッジスクエア代表)

プロジェクト全体の統括。公民館の遠隔コミュニケーション環境、インターネット環境の整備監理、デジタル公民館まっさきの WEB サーバ、WEB メール環境の整備監理、映像収録教材の開発などを担当。

・近藤均(末崎地区公民館館長)

末崎地区のリーダー、公民館長として防犯、福祉、自治会、民生委員、文化・教育機関、公民館利用団体などの地域の関係者、復興計画推進関係者などと本事業のパイプ役並びに活動期間中の公民館の施設管理、霞が関ナレッジスクエアからの衛星中継時のサテライト会場の運営などを担当。

・木川田大典(大船渡市教育委員会生涯学習課課長)

本事業について外部団体と公民館の連携及び協議会の運営についてアドバイスをいただいた。

・池本修悟(特定非営利活動法人 NPO 事業サポートセンター専務理事)

復興支援 IT ボランティア活動の主催団体として、毎月 1 回の被災地活動を共に担う IT ボランティア活動の組織化、IT ボランティアの派遣管理を担当。

・豊重哲郎(鹿児島県鹿屋市柳谷(やねだん)自治公民館館長)

約 300 人の集落を活性化した自治公民館長として、地域経営の視点から末崎町の地域公民館

長や世話役の方々に、地域の再生、自律していくための経験やノウハウ、リーダーたる者に求められること、役割などの指南役を担当。また、重要な地場産業である養殖わかめの今後の展開、やねだん、霞が関ナレッジスクエアとの連携についてもアドバイスいただいた。

・堀池喜一郎(好齢ビジネスパートナーズ世話人／どこ竹武蔵野三鷹顧問)

東京都三鷹市や多摩地域を中心に、あるいは和歌山県熊野地方や北海道北見市などでも活動している“シニアの地域貢献指南役”として、末崎町のシニアが地域参加や地域貢献するうえで有効なプログラムのアドバイスとプログラムの企画・準備・講師などを担当。

・吉田敦也(NPO 法人いきいきネットとくしま理事長／徳島大学地域創生センター長)

シニアの ICT 活用、地域を活性化する ICT 活用、葉っぱビジネスの上勝町の ICT 支援などの徳島県での経験を生かして本事業にアドバイスいただいた。また、ヒューマンインターフェースの専門家としてサイトの機能、コンテンツなどにアドバイスいただいたほか、徳島大学教授という教育者の視点から学生ボランティアを育成するための活動の工夫などでアドバイスを担当。

・丸山修(財団法人高度映像情報センター理事・霞が関ナレッジスクエア事務局)

本プロジェクトの事務局として準備・被災地活動に関わる連絡調整業務全般を担当。また、地域の方々との関係づくりや地域情報の発掘・発信も担当。

(3) コーディネータの役割(敬称略)

・総合コーディネータ 近藤均(運営協議会副代表)

被災地活動に伴って発生する様々な調整ごとをすべてコントロール。末崎町の他の組織の協力取り付けなどに手腕を発揮していただいた。

・デジタル公民館 Web サイトコーディネータ 菊池耕士(社会人ボランティア)

学生、社会人、シニアの三世代から構成されるボランティアスタッフのリーダーを担当する学生のサポート及び Web サイトのコンテンツ作成と公開、サイトの運営管理を担当。

・IT ボランティア被災地コーディネータ 斎藤航史(NPO 法人 NPO 事業サポートセンター)

被災地在住ということで、IT 機器の管理、活動の事前・事後調整、テレビ会議の被災地技術運営などを担当。

・わかめ WG 講師兼コーディネータ 佐々木秀男(末崎中学校スーパーバイザー)

末崎町はわかめ養殖の発祥の地であり、その歴史を絶やさないため、中学校の総合学習で養殖わかめの生産・加工・販売などの体験学習に取り組んできている。佐々木氏は末崎中学校の総合学習スーパーバイザーとして子どもたちの学びを指導しており、元漁業協同組合役員として、歴史や産業の実態にも詳しいことから、デジタル公民館のわかめ WG の講師、コーディネータとして指導いただいた。

・わかめ WG リーダー 伊藤文枝(社会人ボランティア)

地域情報の開発創出を目的とし、被災地の専門家とボランティアスタッフ有志による WG「わかめゼミナール」を組織、コンテンツの企画・構成・取材とりまとめ等を担当。

・シニアの地域参加活動 講師兼コーディネータ 堀池喜一郎(運営協議会委員)

高齢者の地域参加、ICT 活用プログラムとして竹とんぼ教室の講師兼コーディネータとして指導いただいた。

(4) 活動に協力いただいた被災地の団体

・末崎中学校

わかめの総合学習のコンテンツづくりに際し、取材のアドバイス、記録写真の提供、文化祭における発表会の取材など全面的に協力いただいた。

・南浜わかめ養殖組合

末崎中学校の生徒たちのわかめの生産・加工作業を実務的にバックアップ、指導していることから加工場の作業の取材、わかめ養殖事業の現状などについて WG の学習並びに取材に協力いただき、デジタル公民館のコンテンツ作りに参加いただいた。

・基石地区復興まちづくり協議会

基石地区の復興に向けた取り組みについて学習・取材をさせていただくとともに、協議会リーダーが不自由していた ICT の活用面での支援を行った。これらの交流をきっかけにデジタル公民館活動の参考に資する、地域の再生に関する現場の状況をアドバイスいただき、本事業で実施した講演会などに地域の方の参加を働きかけていただいた。

・NPO 法人居場所創造プロジェクト

米国の世界的企業ハネウエル社の資金援助を受けて、末崎町に地域の方々が集う「居場所ハウス」が建設されることとなった。このためデジタル公民館活動との連携を築くべく関係づくりを進め、活動の中心を担う社会福祉法人典人会、デイケアハウス「おたすけ」などの協力を得て、3月10日公民館を会場に行われた「稲田貴久 トーク&ライブ」をお互いに連携協力して取り組んだ。デジタル公民館まっさき側ではこのイベントを全国に UST 中継した。

・気仙広域環境未来都市プロジェクト

大船渡市も参画している同プロジェクトの一環として、末崎町では、養殖わかめなどのブランド化、調理法の研究、普及に取り組む活動として、公民館の近藤 均館長が共同呼びかけ人となり、1月から末崎町わかめ料理レシピ研究会がスタートした。活動にあたっては、末崎町婦人部が中心をなし、大船渡市観光・物産課や大船渡で活動している NPO 関係者なども参画するゆるやかなネットワークとなっている。このため、今後、わかめ学習コンテンツの拡充に資することを念頭にデジタル公民館まっさきとしても参加させていただいた。

・シニアネットリアス・大船渡

大船渡市のシニアで構成するパソコン愛好家グループ、シニアネットリアス・大船渡の方々には、会員同士のスキル向上を超えて、シニアの地域支援に取り組むべく、デジタル公民館活動への参加を呼び掛け、会員数名が毎回パソコンよろず相談屋、研修会、交流会などに参加してくれた。こうした交流もあり、シニアネットリアス・大船渡として、大船渡市の支援も受けて地域住民へのパソコン講習にも乗り出している。

2 大船渡市末崎町 地域の状況・仮設住宅数（震災後）

(1) 世帯数・人口

2012年7月 世帯数 1,516 総人口 4,461(男性 2,146/女性 2,315)

2013年2月 世帯数 1,517(+1) 総人口 4,440(男性 2,129 -17/女性 2311 -4)

(大船渡市住民基本台帳人口より)

(2) 被害状況

死者 32 名/行方不明者 29 名 合計 61 名

家屋の被災状況

家屋の全壊 606 戸/大規模半壊 53 戸/半壊 58 戸/一部損壊 40 戸 合計 757 戸。

(3) 主な被災施設

- ・細浦地区: JR 大船渡線より低地部に密集する家屋や細浦駅周辺の家屋が概ね全壊。細浦魚市場が全壊。わかめ、牡蠣などの養殖漁業者、水産品の加工・販売業者などに甚大な被害。
- ・泊里・基石地区: 両地区とも浸水域の家屋の大半が全壊、漁港施設では防波堤が大きく決壊。体験型民宿などの観光業、養殖漁業、水産品の加工・販売業に甚大な被害。
- ・門之浜地区: 大田団地南側(標高 10m 未満)の家屋がほぼ全壊、防波堤が倒壊、種苗生産施設で稚魚・稚貝が流出し甚大な被害。
- ・地域公民館: 末崎地区公民館傘下地域公民館 18 館のうち、全壊 7 館、大規模半壊 1 館の被害。幸いにして末崎小学校、末崎中学校、末崎地区公民館“ふるさとセンター”は、門之浜地区の後背地である高台に位置していたことから津波の直接被害を免れている。

(4) 設置仮設住宅数

大田応急仮設団地(野球グラウンド): 134 戸

平林応急仮設団地(末崎中学校グラウンド): 70 戸

山岸応急仮設団地(末崎小学校グラウンド): 58 戸

小中井応急仮設団地: 27 戸

大豆沢応急仮設団地:24戸 合計 313戸

末崎町の家屋の被害状況から鑑みても、仮設住宅に入居できない世帯が多数存在し、民間アパートなどの見做し仮設住まいを余儀なくされている方も多い。このため、被災者支援やコミュニティ支援などのボランティア活動の受け入れ施設として末崎地区公民館(ふるさとセンター)の存在、役割、機能は極めて重要となっている。

3 大船渡市“デジタル公民館”まっさき 運営協議会の活動

(1) 活動概要

大船渡市“デジタル公民館まっさき”活動一覧表

(8月～10月)

| | 平成24年8月 | 参加者 | 9月 | 参加者 | 10月 | 参加者 |
|--------------|---------|-----|--|--|--|-----------------|
| 運営協議会 | | | 3日(月) 大船渡市“デジタル公民館”まっさき運営協議会 第1回委員会 | 11名 | | |
| ワーキンググループ | | | | | 13日(土)「わかめゼミナール」WG勉強会 | スタッフ7名 被災地1名 |
| 事前研修 | | | | | 3日(水) 9月活動報告会・フォローアップ研修 10日(水) 10月活動事前研修会 | 30名 10名 |
| 研修会・講習会(リアル) | | | 1日(日) 末崎地区養殖わかめ学習会 1日(日) 竹とんぼ教室「良く飛ぶ竹とんぼ in まっさき」 1日(日) 講演「ネット社会と地域の暮らし」 2日(日) 子供向け・写真とPC講座 3日(月) 山岸仮設住宅集会所・被災地勉強会 | スタッフ11名 被災地1名 スタッフ10名 被災地28名 スタッフ11名 被災地10名 スタッフ5名 被災地6名 スタッフ4名 被災地1名 | | |

| | | | | | | |
|--------------|------------------------------------|------------|--|----------------------------|--|---|
| 研修会・講習会(ネット) | 31日(金) 震が関寄席 馬吉・駒与志二人会:衛星ライブ受信 | 被災地 12名 | 11日(火) エキスパート・スタジオ:衛星ライブ受信 出演:日比啓太郎 28日(金) 震が関寄席 立川談慶 独演会:衛星ライブ受信 講演「ネット社会と地域の暮らし」の映像配信 | 被災地 2名 被災地 1名 | 18日(木) エキスパート・スタジオ:衛星ライブ受信 出演:井口法之 26日(金) 震が関寄席 神田織音の江戸へいざなう講演会:衛星ライブ受信 | 被災地 2名 被災地 2名 |
| 地域学習活動(リアル) | | | 2日(日)、4日(火)、5日(水) パソコンよろず相談 | スタッフ 16名 被災地 30名 | 13日(土)、14日(日) パソコンよろず相談 13日(土) 細浦漁港の牡蠣の殻剥き作業を取材 13日(土) 碓石地区復興まちづくり協議会を取材 14日(火) 岩手県世代間交流フェスタ出展 28日(日) 末崎中学校「わかめ養殖総合学習」発表取材 | スタッフ 12名 被災地 30名 スタッフ 2名 被災地 2名 スタッフ 2名 被災地 2名 スタッフ 12名 被災地 50名 スタッフ 2名 被災地 2名 |
| 地域学習活動(ネット) | Web サイト記事投稿 6件 | | 「館報まさき」の Web 配信 公民館施設予約状況の Web 公開 Web サイト記事投稿 12件 | | Web サイト記事投稿 12件 | |
| | 被災地参加者延 12名 設置 PC 利用 84 時間 14 分 | | スタッフ延 68名 被災地参加者延 79名 設置 PC 利用 31 時間 49 分 | | スタッフ延 77名 被災地参加者延 91名 設置 PC 利用 28 時間 06 分 | |

(11月~1月)

| | 11月 | 参加者 | 12月 | 参加者 | 平成25年1月 | 参加者 |
|-----------|-------------------------------------|-------------------------|---------------------------|-------------------------|---------|-----|
| 運営協議会 | 10日(土) 大船渡市「デジタル公民館」まさき運営協議会 第2回委員会 | 11名 | | | | |
| ワーキンググループ | 10日(土) 「わかめゼミナール」WG 勉強会 | スタッフ 6名 被災地 1名 | 8日(土) 「わかめゼミナール」WG ミーティング | スタッフ 5名 被災地 1名 | | |

| | | | | | | |
|--------------|---|---|--|---|---|---|
| 事前研修 | 7日(水) 11月活動事前研修会 | 12名 | 4日(火) 12月活動事前研修会 | 10名 | 9日(水) 1月活動事前研修会 | 8名 |
| 研修会・講習会(リアル) | 10日(土) 「竹とんぼリーダー講座」事前研修 | スタッフ 4名 被災地 2名 | 9日(日) 竹とんぼ教室「良く飛ぶ竹とんぼ in まっさき」 | スタッフ 10名 被災地 28名 | 12日(土) 「竹とんぼリーダー講座」受講生フォローアップ研修 | スタッフ 3名 被災地 5名 |
| 研修会・講習会(ネット) | 8日(木) 震が関ミュージックサロン:衛星ライブ受信 「霊験の世界・中村明一の尺八による《虚無僧》音楽、そして《倍音》の神秘」 28日(水) 震が関寄席 馬吉・駒与志二人会:衛星ライブ受信 | 被災地 8名 被災地 4名 | 6日(木) エキスパート・スタジオ:衛星ライブ受信 出演:高野誠鮮 26日(水) 震が関寄席 立川談慶 独演会:衛星ライブ受信 | 被災地 6名 被災地 3名 | 25日(金) 震が関寄席 鬼丸・小せん二人会:衛星ライブ受信 | 被災地 6名 |
| 地域学習活動(リアル) | 10日(土)、11日(日) パソコンよろず相談 10日(土) ハネウェル「居場所ハウス」建設計画について取材 11日(日) 末崎町神坂地区公民館の落成祝賀会を取材 | スタッフ 15名 被災地 20名 スタッフ 1名 スタッフ 1名 | 8日(土)、9日(日) パソコンよろず相談 15日(土) わかめ被災地取材 | スタッフ 10名 被災地 17名 スタッフ 2名 被災地 10名 | 12日(土)、13日(日) パソコンよろず相談 12日(土) 末崎公民館被災地リーダー交流会 13日(日) 郷土研究家の佐々木聖雄さんとの意見交換・取材 14日(月) 民宿「吉十郎屋」を取材 14日(月) まっさきわかめ取材 19日(土) 第一回末崎わかめレシピ勉強会取材 19日(土) まっさきわかめ取材 | スタッフ 8名 被災地 20名 スタッフ 8名 被災地 5名 スタッフ 1名 被災地 2名 スタッフ 1名 被災地 2名 スタッフ 3名 被災地 2名 スタッフ 1名 被災地 4名他 スタッフ 1名 被災地 2名 |

| | | | | | | |
|-------------|---|--|---|--|---|--|
| 地域学習活動(ネット) | Web サイト記事投稿 11 件 | | Web サイト記事投稿 7 件 | | Web サイト記事投稿 6 件 | |
| | スタッフ延 50 名 被災地参加者延 35 名 設置 PC 利用 27 時間 07 分 | | スタッフ延 37 名 被災地参加者延 65 名 設置 PC 利用 67 時間 50 分 | | スタッフ延 34 名 被災地参加者延 48 名 設置 PC 利用 41 時間 14 分 | |

(2 月～3 月、総計)

| | 2 月 | 参加者 | 3 月 | 参加者 | 参加者総計 |
|--------------|--|------------------------|--|--|----------------------------|
| 運営協議会 | | | 18 日(月) 大船渡市“デジタル公民館”まっさき運営協議会第 3 回委員会 | 10 名 | スタッフ延 32 名 |
| ワーキンググループ | 9 日(土)「わかめゼミナール」WG ミーティング | スタッフ 5 名 被災地 2 名 | 9 日(土)「わかめゼミナール」WG ミーティング | スタッフ 7 名 被災地 3 名 | スタッフ延 30 名 被災地参加者延 8 名 |
| 事前研修 | 6 日(水) 2 月活動事前研修会 | 8 名 | 5 日(火) 3 月活動事前研修会 | 9 名 | スタッフ延 87 名 |
| 研修会・講習会(リアル) | 9 日(土)「竹とんぼリーダー講座」フォローアップ研修 | スタッフ 2 名 被災地 5 名 | 8 日(金) やねだん豊重哲郎さんと私たちの“まっさき”の未来を語る会 9 日(土) ボランティアのあり方、被災地支援についてのスタッフ研修 10 日(日) 竹とんぼグループフォローアップ研修 | スタッフ 6 名 被災地 13 名 スタッフ 12 名 スタッフ 15 名 被災地 20 名 | スタッフ延 93 名 被災地参加者 131 名 |
| 研修会・講習会(ネット) | 15 日(木) エキスパート・スタジオ：衛星ライブ受信 出演：角田美紗季 22 日(金) 震が関寄席 金原亭若手一門会：衛星ライブ受信 | 被災地 1 名 被災地 2 名 | 8 日(金) 復興支援活動報告会 (KK2 ランチミーティング番外編)：インターネット生中継 22 日(金) エキスパート・スタジオ：衛星ライブ受信 出演：味園公一 27 日(水) 震が関寄席 立川談慶 震が関独演会：衛星ライブ受信 | 被災地 8 名 被災地 2 名 被災地 4 名 | 被災地参加者延 45 名 |

| | | | | | |
|-----------------|--|---|--|--|--|
| 地域学習活動 (リアル) | 9日(土)、10日(日) パソコン よろず相談 16日(土) 第二回末崎わかめ レシピ勉強会取材 | スタッフ 6名 被災地 12名 スタッフ 1名 被災地 4 名他 | 9日(土)、10日(日) パソコンよ ろず相談 | スタッフ 12名 被災地 21名 | スタッフ延 117名 被災地参加者延 237名 |
| 地域学習活動 (ネット) | 9日(土) 「竹とんぼ教室の準備と 進め方」に関する教材ビデオ (準備編)の作成 Web サイト記事投稿 5件 | アクセス 数 24件 | 6日 「竹とんぼ教室の準備と 進め方」に関する教材ビデオ (進め方編)の作成 10日(日) 「稲田貴久 トーク& ライブ」のユーストリーム配信 Web サイト記事投稿 11件 | アクセス 数 61件 スタッフ 5名 被災地 30名 アクセス 数 60件 | スタッフ延 5名 被災地参加者延 30名 |
| | スタッフ延 22名 被災地参加者延 26名 設置 PC 利用 31 時間 30 分 | | スタッフ延 76名 被災地参加者延 95名 設置 PC 利用 60 時間 11 分 | | スタッフ延 364名 被災地参加者延 451名 設置 PC 利用 372 時間 1 分 |

前掲委員、コーディネータ及び学生、社会人、シニアの三世代から構成されるボランティアスタッフが協働し、下記六項の計画に基づき活動しました。

- ① “ふるさとセンター”のインターネット環境の整備
- ② “ふるさとセンター”の衛星ライブ受信環境とビデオオンデマンド学習環境の整備
- ③ 「デジタル公民館まっさき」の構築-WEB サイト構築-
- ④ 復興支援 IT ボランティア派遣の支援
- ⑤ 地域再生人材(コミュニティ・リーダー)育成プラットフォームの整備
- ⑥ 地域情報の開発、創出に向けた住民や専門家によるワーキングチームの整備

大船渡市“デジタル公民館まっさき”の活動参加人数は、委員、コーディネータ及び学生、社会人、シニアの三世代から構成されるボランティアスタッフの合計が延べ364名。被災地住民の方など公民館に来られた被災地参加者合計は延べ451名。となり、末崎地区人口の約 10%にあたります。

また月一回の被災地での活動の無い期間、ふるさとセンター共有スペースに設置したパソコン(2台)での、被災地の方々ご利用時間は延べ372時間1分という活動実績を残しました。

(2) 大船渡市”デジタル公民館“まっさき 運営協議会 委員会

前掲協議会委員による運営協議会を三回開催し、六項の計画に対する方向性を協議し、具体的な活動内容を確認しました。※ 資料編に議事録を掲載しました。

・大船渡市“デジタル公民館”まっさき運営協議会 第1回委員会

平成 24 年 9 月 3 日(月) 13:00～15:00

場所(TV 会議):大船渡市末崎地区公民館(霞が関ナレッジスクエア):

委員:久保田了司【議長兼進行役】・近藤均・柳本綾子・堀池喜一郎・吉田敦也・丸山修【司会】

その他:菊池耕士(書記)

霞が関ナレッジスクエア会場参加者:

委員:池本修悟・伊庭野基明・伊藤健二/その他:山田瑞恵(書記)

・大船渡市“デジタル公民館”まっさき運営協議会 第2回委員会

平成 24 年 11 月 10 日(土) 10:00～12:00

場所(TV 会議):大船渡市末崎地区公民館(霞が関ナレッジスクエア):

委員:久保田了司【議長兼進行役】・近藤均・柳本綾子・堀池喜一郎・丸山修【司会】

その他:菊池耕士(書記)・名越秀実(わかめ WG)

霞が関ナレッジスクエア会場参加者:

委員:池本修悟・伊庭野基明・伊藤健二/その他:山田瑞恵(書記)

・大船渡市“デジタル公民館”まっさき運営協議会 第3回委員会

平成 25 年 3 月 18 日(月) 10:00～12:00

場所(TV 会議):霞が関ナレッジスクエア(大船渡市末崎地区公民館):

委員:近藤均・柳本綾子・丸山修

その他:斎藤航史(NPO 事業サポートセンター・IT ボランティア被災地コーディネータ)

霞が関ナレッジスクエア会場:

委員:久保田了司【議長兼進行役】・堀池喜一郎・池本修悟・伊庭野基明・伊藤健二

その他:菊池耕士(書記)



(3) ワーキンググループ

地域情報の開発創出を目的とし、被災地の専門家とボランティアスタッフ有志によるWG「わかめゼミナール」を組織した。社会人ボランティア伊藤文枝をリーダーとし、末崎中学校での総合学習で“わかめ養殖”を指導されている佐々木秀男さん(わかめ総合学習スーパーバイザー)を中心に被災地の皆さんに加わっていただき、勉強会を5回開催。今年度WG活動のまとめとして、WEBページ「[まっさきわかめを学ぼう!](#)」をリリースした。

・「わかめゼミナール」WG勉強会

平成24年10月13日(土) 19:00～21:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

講師:佐々木秀男(大船渡市立末崎中学校 特別非常勤講師/スーパーバイザー)

委員出席者:久保田了司、近藤均、丸山修

WG出席者:伊藤文枝、名越秀美、吉田和史、菊池耕士

内容:末崎地域のわかめ養殖の歴史、現状、課題などを学び、「まっさきわかめ」の情報発信について話し合った。

・「わかめゼミナール」WG勉強会

平成24年11月10日(土) 19:00～21:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

講師:佐々木秀男(末崎中学校スーパーバイザー)

委員出席者:久保田了司、近藤均、丸山修

WG出席者:伊藤文枝、吉田和史、菊池耕士

内容:末崎地域のわかめ養殖の工程や作業、総合学習の内容などを学ぶとともに、「まっさきわかめ」の情報発信について話し合った。

・「わかめゼミナール」WGミーティング

平成24年12月8日(土) 19:00～21:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

コーディネータ:佐々木秀男(末崎中学校スーパーバイザー)

委員:久保田了司、近藤均、丸山修

WG:伊藤文枝、菊池耕士

内容:総合学習の歴史や12月の体験学習などについて学び、ホームページ内に養殖わかめに関する情報をまとめるにあたり、調査・取材先候補、具体的なコンテンツの構成などを話し合った

・「わかめゼミナール」WGミーティング

平成25年2月9日(土) 19:00～21:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

コーディネータ:佐々木秀男(末崎中学校スーパーバイザー)

委員:久保田了司、丸山修

WG:伊藤文枝、吉田和史、菊池耕士、矢野信吾(末崎わかめレシピ研究会)

内容:わかめゼミナール Webコンテンツのレビューを行い、情報発信の仕方について議論した。

・「わかめゼミナール」WGミーティング

平成25年3月9日(土) 18:00～22:00

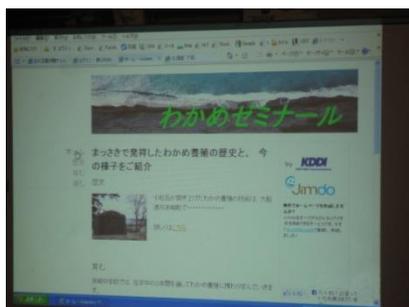
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

コーディネータ:佐々木秀男(末崎中学校スーパーバイザー)

委員:久保田了司、近藤均、丸山修

WG:伊藤文枝、吉田和史、菊池耕士、小川悠貴

内容:わかめゼミナール Webコンテンツのレビューを行い、情報発信の仕方について議論した。



(4) 事前研修

リアルな活動を担う学生、社会人、シニアの三世代から構成されるボランティアスタッフは、原則的には毎月第二週の金土日で被災地での活動を行いました。被災地に赴く2～3日前の19:00-21:00、KK²で2Hほど事前研修会を実施し、ボランティアスタッフの学びと情報共有を行いました。

KK² のしごと力向上ライブラリーでリリースした「[被災地支援ボランティアに行く前に知っておきたいこと](#)」も、オンデマンドでの学びに活用しました。

・9月活動報告会・フォローアップ研修

平成 24 年 10 月 3 日(水) 18:00～21:00 場所:霞が関ナレッジスクエア

参加者:30 名

平成 24 年 9 月に行われたITボランティア活動の報告会およびフォローアップ研修が行われた。当日は、会の様子のユーストリーム配信を行い、被災地スタッフとの意見交流も行った。

・10月活動事前研修会

平成 24 年 10 月 10 日(水) 18:00～21:00

場所:霞が関ナレッジスクエア

参加者:10 名

・11月活動事前研修会

平成 24 年 11 月 7 日(水) 18:00～21:00

場所:霞が関ナレッジスクエア

参加者:12 名

・12月活動事前研修会

平成 24 年 12 月 4 日(火) 18:00～21:00

場所:霞が関ナレッジスクエア

参加者:10 名

- ・1月活動事前研修会
平成 25 年 1 月 9 日(水) 18:00～21:00
場所:霞が関ナレッジスクエア
参加者:8 名
- ・2月活動事前研修会
2月 6 日(水) 18:00～21:00
場所:霞が関ナレッジスクエア
参加者:8 名
- ・3月活動事前研修会
3月 5 日(火) 18:00～21:00
場所:霞が関ナレッジスクエア
参加者:9 名



(5) 研修会・講習会(リアル)

- ・末崎地区養殖わかめ学習会
平成 24 年 9 月 1 日(日) 10:00～12:00
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
講師:佐々木秀男(大船渡市立末崎中学校 特別非常勤講師/スーパーバイザー)
委員:久保田了司、近藤均、堀池喜一郎、丸山修
IT ボランティア:11 名
大船渡市立末崎中学校の総合的な学習の時間「産土タイム“海と生きる”」で 2002 年から取り組まれている「わかめ養殖体験学習」で講師を務める佐々木秀男さんをお招きし、末崎地区のわかめ養殖の歴史や現状、課題についてお話を伺った。



- ・竹とんぼ教室「良く飛ぶ竹とんぼ in まっさき」
- 平成 24 年 9 月 1 日(日) 13:00～16:00
- 場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
- 講師:堀池喜一郎(大船渡市“デジタル公民館”まっさき運営協議会委員／好齡ビジネスパートナーズ世話人／武蔵野三鷹どこ竹@竹とんぼ教室顧問)
- 安井豊(武蔵野三鷹どこ竹@竹とんぼ教室講師)
- 委員:久保田了司、近藤均、吉田敦也、丸山修
- IT ボランティア:10 名
- 来場者:子供 26 名／大人 12 名

地域のシニア・大人が一緒になって、子供たちに竹とんぼ作成を教える教室の開催することで、竹細工などの被災地の材料を用いた玩具・工芸品の作成、シニア親子の三世代が一緒に活動する場の提供、地域コミュニティの活性化などを目標とする。今回は、準備段階として、竹とんぼ教室の運営を繰り返し行なってきた「どこ竹」の先生をお招きし、実際に竹とんぼ教室を催すことで、竹とんぼ教室の楽しさを親子に実感してもらうことを試みた。



・講演「ネット社会と地域の暮らし」

平成 24 年 9 月 1 日(日) 19:00～21:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

テーマ:高齢者が地域に役立ち、自分らしく活躍！ ～志事づくり、志事場づくりはどう進めるか～

講師:堀池喜一郎(大船渡市“デジタル公民館”まさき運営協議会委員／好齡ビジネスパートナーズ世話人／武蔵野三鷹どこ竹@竹とんぼ教室顧問)

委員:久保田了司、近藤均、吉田敦也、丸山修

スタッフ参加者:10名

来場者:10名

被災地のコミュニティづくりや住民の方々が自立に一步踏み出してもらうために、人生経験が豊富で定年退職後地域で楽しく暮らしているシニア、とりわけ ICT を生活や地域活動、コミュニティビジネス等で生かしているシニアの参画が求められている。そのために、具体的に地域のために働き、支えてきているシニアの活躍や地域活性化への取り組みを例示するとともに、各々に何ができるかを議論した。

・子供向け・写真とPC 講座

平成 24 年 9 月 2 日(日) 13:00～16:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

スタッフ参加者:計 5 名

来場者:計 6 名

子供たちと周辺の写真撮影や、撮影した写真の加工など PC 体験講座を行った。



・山岸仮設住宅集会所・被災地勉強会

平成 24 年 9 月 3 日(月) 18:00～20:00

場所:大船渡市山岸仮設住宅集会所

スタッフ参加者:4名

山岸仮設住宅集会所を訪問し、仮設住宅支援員の末崎地区マネージャー 新沼利雄さんから、仮設住宅住民の様子やボランティア活動の課題、ICT 活用ニーズなどについてお話を伺った。

・「竹とんぼリーダー講座」事前研修

平成 24 年 11 月 10 日(土) 13:00～16:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

講師:堀池喜一郎

委員:久保田了司、近藤均、丸山修

被災地有志:2名

竹とんぼ教室を企画運営できる「講師育成」講座を行うにあたり、被災地有志と準備のための打ち合わせを行った。また、製作ワークショップで使う羽根を調達する竹林の調査、材料準備を行った。

・「竹とんぼリーダー育成実技講座」& サブ講師体験竹とんぼ教室

平成 24 年 12 月 9 日(日) 9:30～12:30、13:30～15:30

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

講師:堀池喜一郎(大船渡市“デジタル公民館”まさき運営協議会委員／好齡ビジネスパートナーズ世話人／武蔵野三鷹どこ竹@竹とんぼ教室 顧問)

安井豊(武蔵野三鷹どこ竹@竹とんぼ教室講師)

委員:久保田了司、近藤均、丸山修

スタッフ参加者:5名

午前の部参加者:11名

午後の部参加者:子供 15 名／大人 2 名

午前(9:30～12:30)に、「どこ竹リーダー育成実技講座」を催し、地域で竹とんぼ教室を開ける講師の育成を行った。引き続き午後(13:30～15:30)、実際に子どもと保護者を対象にした「良く飛ぶ竹とんぼ教室」を実施することで、講師候補生に教室の運営を経験してもらい、竹とんぼ教室

の開催に必要な技能や運営方法に関する知識の指導を行った。



- ・「竹とんぼリーダー講座」フォローアップ研修
平成 25 年 1 月 12 日(土) 14:30～17:00
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
講師:堀池喜一郎
委員:久保田了司、丸山修
被災地参加者:5名
平成 25 年 12 月 9 日午前に行われた竹とんぼ教室講師育成講座の修了者への講師認定作業報告講評を行った。また、被災地の修了者による自主活動の報告が行われた。
- ・「竹とんぼリーダー講座」フォローアップ研修
平成 25 年 2 月 9 日(土) 14:00～16:00
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
コーディネータ:久保田了司
委員参加者:丸山修
被災地参加者:5名
竹とんぼ教室開催に関わる教材ビデオの作成や、竹加工技術に関する意見交換などを行った。
- ・やねだん豊重哲郎さんと私たちの“まっさき”の未来を語る会
平成 25 年 3 月 8 日(金) 18:30～21:00
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
講師:豊重哲郎(鹿児島 柳谷(やねだん)自治公民館長)
委員:久保田了司、近藤均、丸山修
スタッフ参加者:5名
来場者:13名(被災地リーダー9名、その他4名)
「やねだん」は、鹿児島県大隈半島にある約 130 戸 320 人が住む小さな農村集落。高齢化、過疎化が進む 15 年前、豊重哲郎さんが自治公民館長となり「感動と感謝の地域づくり」を目指しました。今では、オリジナル商品開発等で自主財源を確保、高齢者にボーナスを支給するまでになりました。1 人ひとりが役割を持ち活躍する魅力ある集落になった秘訣について豊重さんにお話を伺いました。



- ・ボランティアのあり方、被災地支援についてのスタッフ研修
平成 25 年 3 月 9 日(土) 8:00～10:00
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
講師:豊重哲郎(鹿児島 柳谷(やねだん)自治公民館長)
委員:久保田了司、丸山修
スタッフ参加者:11 名

高齢化、過疎化が進む鹿児島県の小さな農村集落が、オリジナル商品開発等で自主財源を確保し、高齢者にボーナスを支給するまで地域再生を行った。この地域再生をもとに、復興支援を行うITボランティアの心構えや活動方針についての話し合いを行った。

- ・竹とんぼグループフォローアップ研修
平成 25 年 3 月 10 日(日) 10:00～12:00
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
講師:堀池喜一郎
委員:久保田了司、丸山修
スタッフ参加者:4 名
被災地参加者:5 名

被災地竹とんぼ講師との定例打ち合わせを行った。新しく作られた竹細工のお披露目や、今後の竹とんぼ教室の開催準備、竹とんぼ教室開催に関わる教材ビデオへの意見交換などを行った。



(6) 研修会・講習会(ネット)

霞が関ナレッジスクエアプログラムの衛星ライブ受信を活かした研修会・講習会を開催しました。

- ・霞が関寄席 馬吉・駒与志二人会:衛星ライブ受信
平成 24 年 8 月 31 日(金) 19:00～20:30
出演:金原亭馬吉(落語家)
金原亭駒与志(落語家)
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
配信元:霞が関ナレッジスクエア
被災地参加者:12 名



- ・[第 20 回「エキスパート・スタジオ」航空業界総合職技術職日比啓太郎さん](#):衛星ライブ受信
平成 24 年 9 月 11 日(火) 18:30～20:00
出演:日比啓太郎(全日本空輸株式会社 整備本部 機体メンテナンスセンター 業務推進室)、
伊庭野基明(グローバルキャリアカウンセラー)、合田絢子(ナビゲーター)
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
配信元:霞が関ナレッジスクエア
被災地参加者:2 名
航空業界の使命としてもっとも重要な「安全性、快適性、定時性」を実現するために、トップレベルの整備技術と管理能力によって航空機の安全運航を支えています。現在入社 8 年目、6 年間の現業整備士時代を経て、整備本部の企画・業務推進を担当するエキスパートに、これまでの歩み、仕事への思いなどについてじっくりとお話を伺い、コンピテンシーを探った。
- ・霞が関寄席 立川談慶 独演会:衛星ライブ受信
平成 24 年 9 月 28 日(金) 19:00～20:30
出演:立川談慶(落語家)
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
配信元:霞が関ナレッジスクエア
被災地参加者:1 名

・[第21回「エキスパート・スタジオ」オーナーバーテンダー井口法之さん](#):衛星ライブ受信

平成24年10月18日(木) 18:30～20:00

出演:井口法之(Bar GASLIGHT オーナーバーテンダー)

伊庭野基明(グローバルキャリアカウンセラー)、進藤正子(ナビゲーター)

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

配信元:霞が関ナレッジスクエア

被災地参加者:2名

ゲストは、いわゆる「オーセンティック・バー」(伝統的なバー)のオーナーバーテンダー。数百種類のお酒を作る豊富な知識と技術、最高の接客、そしてオーナーとしての経営感覚が求められます。80年代の映画「カクテル」のトム・クルーズにあこがれてバーテンダーの道を選び、世界大会入賞まで上りつめたエキスパートに、これまでの歩み、仕事への思いなどについてお話を伺いながら、コンピテンシーを探った。

・霞が関寄席 神田織音の江戸へいざなう講談会:衛星ライブ受信

平成24年10月26日(金) 19:00～20:30

出演:神田織音(講談師)

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

配信元:霞が関ナレッジスクエア

被災地参加者:2名

・霞が関ミュージックサロン:衛星ライブ受信

平成24年11月8日(木) 19:00～20:10

「霊験の世界・中村明一の尺八による《虚無僧》音楽、そして《倍音》の神秘」

出演:中村明一(作曲家・尺八演奏家)、佐藤慶子(作曲家、音楽サロンプロデューサー)

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

配信元:霞が関ナレッジスクエア

被災地参加者:8名

・霞が関寄席 馬吉・駒与志二人会:衛星ライブ受信

平成24年11月28日(水) 19:00～20:30

出演:金原亭馬吉(落語家)

金原亭駒与志(落語家)

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

配信元:霞が関ナレッジスクエア

被災地参加者:4名

・[第22回「エキスパート・スタジオ」地方公務員高野誠鮮さん](#):衛星ライブ受信

平成24年12月6日(木) 18:30～20:00

出演:高野誠鮮(羽咋市役所 農林水産課ふるさと振興係)、

伊庭野基明(グローバルキャリアカウンセラー)、渡辺ゆうこ(ナビゲーター)

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

配信元:霞が関ナレッジスクエア

被災地参加者:6名

ゲストは、“スーパー公務員”との異名をとり、カンブリア宮殿にも出演!という今話題の高野誠鮮さん。羽咋市の中で最も過疎高齢化していた神子原(みこはら)地区の再生プロジェクトに年間予算60万円で取組み、補助輪なしで自活自立する集落づくりを実現しました。「成功と失敗は紙一重だけど、やるとやらないとでは雲泥の差」「紙の計画書だけでは村は変わらない」…「出すぎる杭は打たれない!」を体現する高野さんのこれまでの取組み、あゆみ、コンピテンシーについてお話を伺った。

・霞が関寄席 立川談慶 独演会:衛星ライブ受信
平成 24 年 12 月 26 日(水) 19:00～20:30
出演:立川談慶(落語家)
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
配信元:霞が関ナレッジスクエア
被災地参加者:3 名

・霞が関寄席 鬼丸・小せん二人会:衛星ライブ受信
平成 25 年 1 月 25 日(金) 19:00～20:30
出演:三遊亭鬼丸(落語家)、柳家小せん(落語家)
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
配信元:霞が関ナレッジスクエア
被災地参加者:6 名

・[第 23 回「エキスパート・スタジオ」IT 業界プロデューサー 角田美紗季さん](#):衛星ライブ受信
平成 25 年 2 月 15 日(木) 18:30～20:00
出演:角田美紗季(ヤフー株式会社 ソーシャルアクション室 復興支援室「復興部門」プロデューサー)、伊庭野基明(グローバルキャリアカウンセラー)、渡辺ゆうこ(ナビゲーター)
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
配信元:霞が関ナレッジスクエア
被災地参加者:1 名
ゲストは、ヤフー株式会社の「復興支援事業」プロジェクトメンバー で、「復興部門」プロデューサーの角田美紗季さんに、復興支援を強力に推進する「ヤフー石巻復興ベース(宮城県石巻市)」について、また自身の仕事への意気込みについてお話を伺った。

・霞が関寄席 金原亭若手一門会:衛星ライブ受信
平成 25 年 2 月 22 日(金) 18:45～20:30
出演:金原亭馬治(落語家)、金原亭馬吉(落語家)、金原亭駒松(落語家)、
金原亭駒与志(落語家)
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
配信元:霞が関ナレッジスクエア
被災地参加者:2 名

・[東日本大震災復興支援活動 第 2 回報告会](#):インターネットライブ受信
平成 25 年 3 月 8 日(金) 15:00～18:00
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
委員:近藤均、丸山修
被災地会場参加者:8 名
光回線による通信環境を整備し、2 階会議室にて霞が関ナレッジスクエアで開催されている復興支援活動について、NPO、民間の企業 CSR、官庁などによる報告会の模様を中継。公民館職員、大船渡市で活動している民間団体、ボランティアらが参加した。





- ・ [第24回「エキスパート・スタジオ」社会保険労務士味園公一さん](#): 衛星ライブ受信
 平成 25 年 3 月 22 日(金) 18:30～20:00
 出演: 味園公一(味園社会保険労務士事務所 代表)、伊庭野基明(グローバルキャリアカウンセラー)、渡辺ゆうこ(ナビゲーター)
 場所: 大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
 配信元: 霞が関ナレッジスクエア
 被災地参加者: 2 名
 ゲストは、社会保険労務士の味園公一さん。社会保険の手続きはもちろん、労働相談、年金相談など、人事労務管理を総合的にお手伝いする「人に関する専門家」に、仕事への意気込みについてお話を伺った。

- ・ 霞が関寄席 立川談慶 霞が関独演会: 衛星ライブ受信
 平成 25 年 3 月 27 日(水) 18:45～20:30
 出演: 立川談慶
 場所: 大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
 配信元: 霞が関ナレッジスクエア
 被災地参加者: 4 名

(6) 地域学習活動(リアル)

- ・ パソコンよろず相談
 平成 24 年
 9 月 2 日(日) 9:00～12:00、13:00～16:00、19:00～21:00
 9 月 4 日(火) 9:00～12:00、13:00～16:00、19:00～21:00
 9 月 5 日(水) 9:00～12:00、13:00～16:00、19:00～21:00
 場所: 大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
 委員: 久保田了司、堀池喜一郎、吉田敦也、丸山修
 スタッフ参加者: 計 16 名
 来場者: 計 30 名
 パソコンの基本操作、インターネットの使い方などから、ブログ・Facebook の活用法や写真加工、携帯電話の使い方、宛名差し込み印刷など、多様な相談対応を行った。
- ・ 細浦漁港の牡蠣の殻剥き作業を取材
 平成 24 年 10 月 13 日(土) 10:00～11:00
 場所: 大船渡市細浦漁港
 委員: 丸山修
 スタッフ参加者: 1 名
 「北浜わかめ組合 虹の会」の組合長、細川周一さん取材した。震災後に、中小企業基盤整備機構の仮施設整備事業に申請して建設された“プレハブ”作業場で、牡蠣の殻剥き作業している様子を見学させていただきながら、養殖事業者の復興の芽を見た。また、「北浜わかめ組合 虹の会」のサポーター募集事業について伺った。

・基石地区復興まちづくり協議会取材

平成 24 年 10 月 13 日(土) 13:00～17:00

場所:大船渡市ホテル基石(末崎町大浜 221-115)

委員:久保田了司、丸山修

スタッフ参加者:1名

基石地区復興まちづくり協議会取材した。基石地域の特性や歴史について改めて確認することで、専門家の支援を受けながら地域に根ざした特色のあるまちづくりを目指す旨が話し合われた。基石地区復興まちづくり協議会会長で西館地域公民館長でもある大和田東江さんと学びを通じた地域活性化支援、ICT 活用支援について話しあった。

・パソコンよろず相談

平成 24 年 10 月 13 日(土) 10:00～12:00、13:00～16:00、19:00～21:00

10 月 14 日(日) 10:00～12:00、13:00～16:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

委員:久保田了司、丸山修

スタッフ参加者:計 12 名

来場者:計 30 名(内子供 10 名)

パソコンの基本操作、インターネットの使い方などから、Office ソフトの操作法、ブログ・Facebook などのソーシャルネットワーク活用法や写真加工、携帯電話の使い方など、多様な相談対応を行った。

・岩手県世代間交流フェスタ出展

平成 24 年 10 月 14 日(火) 11:00～15:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

委員:久保田了司、近藤均、丸山修

スタッフ参加者:12 名

来場者:50 名

岩手県主催の「世代間交流フェスタ」に「デジタル公民館まっさき」として出展し、ネットを通じた学びの提供事業や住民を対象にしたパソコン教室、ウェブサイトによる地域情報の発信、竹とんぼ教室などの活動の案内を行った。併せて、過去のライブ映像(平成 24 年 8 月 13 日、末崎町野球スポーツ少年団の全国大会出場時に行ったユーストリーム映像の上映)や写真撮影・印刷など、IT 活用の紹介を行った。当日は IBC 岩手放送の取材を受けた。



・末崎中学校「わかめ養殖総合学習」発表取材

平成 24 年 10 月 28(日) 10:00～12:00

場所:大船渡市末崎中学校

スタッフ参加者:2 名

末崎中学校文化祭での「わかめ養殖総合学習」の発表取材した(10:00～11:00)。また、総合学習に携わる同校の角掛忠浩副校長と懇談を行い、総合学習の現状について伺った(11:00～11:40)。

・ハネウエル「居場所ハウス」建設計画について取材

平成 24 年 11 月 10 日(土)
場所:末崎町サポートセンター「おたすけ」
委員:丸山修

米国のハネウェル社が建設資金を提供して建てられる「居場所ハウス」の鎮魂祭取材した。運営は地元の社会福祉法人や地域住民らが NPO を設立して行う計画。理事長には末崎地区公民館長の近藤均氏(末崎地区ふるさとセンター館長・運営協議会委員)が就任する。

・末崎町神坂地区公民館の落成祝賀会取材
平成 24 年 11 月 11 日(日) 14:00～15:00
場所:大船渡市神坂地域公民館
委員:丸山修

3.11 の東日本大震災の津波により末崎町では 18 地域公民館のうち 7 館が全壊、1 館が大規模半壊という甚大な被害を被った。この中で、半壊した神坂公民館(末崎町字神坂 17 番地 2=館長村上優司)の再建工事が完成し、関係者、地域住民ら約 70 名が参集して落成祝賀会が行われた。その様子取材した。

・パソコンよろず相談
平成 24 年 11 月 10 日(土) 13:00～16:00
11 月 11 日(日) 10:00～12:00、13:00～16:00
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
委員:久保田了司、堀池喜一郎、丸山修
スタッフ参加者:計 15 名
来場者:計 20 名

パソコンの基本操作、Office ソフト(Word、Excel)の操作法、ブログ・Facebook などのソーシャルネットワーク活用法や、メール・インターネットの使い方などの相談対応を行った。

・パソコンよろず相談
平成 24 年 12 月 8 日(土) 13:00～16:00
12 月 9 日(日) 10:00～12:00、13:00～16:00
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
委員:久保田了司、堀池喜一郎、丸山修
スタッフ参加者:計 10 名
来場者:大人計 17 名(延べ 30 名)／子供計 5 名

パソコンの基本操作から Office ソフトの利用、インターネット・メールの使い方、Facebook の活用法など、来場した方々から寄せられた様々なパソコン相談への対応をした。季節柄、年賀状作成のご要望も多く、住所録の整理から宛名印刷(差込印刷)や、文面デザインなども行った。

・わかめ被災地取材
平成 24 年 12 月 15 日(土) 10:00～15:00
場所:末崎町碁石海岸、斉藤商店、大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
WG:佐々木秀男、伊藤文枝、菊池耕士

末崎の養殖わかめに関する被災地取材を行った。末崎町碁石海岸脇にある「わかめ養殖発祥地顕彰碑」や門之浜漁港の撮影(9:30～10:30)、漁協を介さず独自にわかめ販売を行なっている斉藤商店(大船渡市末崎町字大豆沢 17-8)への取材(10:30～11:30)の後、わかめ養殖総合学習を受けている中学生(1 年生・2 年生計 7 名)へのインタビュー(12:00～13:00)、南浜わかめ養殖組合の尾崎健二組合長への取材(14:00～15:00)を行った。

・郷土研究家の佐々木聖雄さんとの意見交換・取材
平成 25 年 1 月 13 日(日) 10:00～12:00
場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)
委員:近藤均、丸山修

毎月発刊の公民館報「館報まっさき」にて、「末崎町風土記」を連載されている郷土研究家の佐々木聖雄さん(「末崎の昔を語る会」顧問)と意見交換・取材を行った。末崎地区の風土や歴史をどのように後世に伝えていくかを話し合った。

・パソコンよろず相談

平成 25 年 1 月 12 日(土) 13:00～16:00

1 月 13 日(日) 10:00～12:00、13:00～16:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

委員:久保田了司、堀池喜一郎、丸山修

スタッフ参加者:計 8 名

来場者:大人計 15 名/子供計 5 名

パソコン・ネット未経験者&初心者からスキル、知識、活用領域を広げたい人など、子どもから女性、高齢者、就職に向けてパソコンを体験したい働く世代の人を対象に、パソコンやインターネットのよろず相談対応を行った。また、大船渡市山岸仮設の支援員のIT活用サポートに被災地出張を行った。

・末崎公民館被災地リーダー交流会

平成 25 年 1 月 12 日(土) 19:00～21:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

委員:久保田了司、近藤均、堀池喜一郎、丸山修

スタッフ:8 名

被災地リーダー:5 名

・民宿「吉十郎屋」を取材

平成 25 年 1 月 14 日(月) 14:00～15:00

場所:民宿「吉十郎屋」(大船渡市末崎町字中森 45)

委員:丸山修

泊里地域公民館(津波で全壊)の館長でもある熊谷芳弘さんとその奥さん美代子さんが経営する民宿「吉十郎屋」を取材した。土台部分を残して津波で全壊した自宅を気仙大工さんに依頼して独力で再建し、平成 24 年 10 月にオープンした。震災後に新たに起業し地域活性に意気込む熊谷さんと、泊里・碁石地区の特色を活かした情報発信について意見交換を行った。

・まっさきわかめ取材

平成 25 年 1 月 14 日(月) 9:00～11:20

場所:大船渡市立図書館、末崎町の山林、尾崎真さん作業場

WG:佐々木秀男、伊藤文枝、吉田和史、斎藤航史

大船渡市立図書館でわかめ養殖に関する資料の収集(9:00～9:40)、末崎中学校での「わかめ養殖総合学習」が行われる被災地の山林の調査(10:00～10:30)、大船渡市漁業理事 尾崎真さん作業場訪問(10:40～11:20)を行った。



・第一回末崎わかめレシピ勉強会取材

平成 25 年 1 月 19 日(土) 10:00～12:30

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

WG:近藤均、伊藤文枝

末崎町の養殖わかめの良さを活かしたわかめ料理レシピを研究している被災地の勉強会(参加者 30 名)を取材した。発起人:近藤均(末崎地区ふるさとセンター館長・運営協議会委員)、矢野信

吾(気仙広域環境未来都市コーディネーター)、主催:末崎町婦人会(会長 大和田美恵子)、料理人:本多サト子さん(大船渡市食生活改善推進員団体連絡協議会会長)。

・まっさきわかめ取材

平成 25 年 1 月 19 日(土) 13:00～14:00

場所:尾崎真さん作業場

WG:佐々木秀男、伊藤文枝

大船渡市漁業理事 尾崎真さん作業場訪問(10:40～11:20)を行いわかめ加工の機器の説明や流れを取材した。また、中学生の息子さんをお見せし、わかめ養殖総合学習と地域の産業との関わりについてお話を伺った。

・パソコンよろず相談

平成 25 年 2 月 9 日(土) 13:00～16:00

2 月 10 日(日) 10:00～12:00、13:00～16:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

委員:久保田了司、堀池喜一郎、丸山修

スタッフ参加者:計6名

来場者:大人計 9 名 / 子供計 3 名

パソコン・ネット未経験者 & 初心者からスキル、知識、活用領域を広げたい人など、子どもから女性、高齢者、就職に向けてパソコンを体験したい働く世代の人を対象に、パソコンやインターネットのよろず相談対応を行った。また、大船渡市山岸仮設の支援員のIT活用サポートに被災地出張を行った。

・第二回末崎わかめレシピ勉強会取材

平成 25 年 2 月 16 日(土) 9:00～13:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

委員:丸山修

末崎町の養殖わかめの良さを活かしたわかめ料理レシピを研究している被災地の勉強会(参加者 15 名)を取材した。発起人:近藤均(末崎地区ふるさとセンター館長・運営協議会委員)、矢野信吾(気仙広域環境未来都市コーディネーター)、主催:末崎町婦人会(会長 大和田美恵子)、料理人:本多サト子さん(大船渡市食生活改善推進員団体連絡協議会会長)。陸前高田市市長洞元 気村なでしこ会との交流も行った。

・パソコンよろず相談

平成 25 年 3 月 9 日(土) 13:00～16:00

3 月 10 日(日) 10:00～12:00、13:00～16:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

委員:久保田了司、堀池喜一郎、丸山修

スタッフ参加者:計 12 名

来場者:大人計 12 名 / 子供計 9 名

パソコン・ネット未経験者 & 初心者からスキル、知識、活用領域を広げたい人など、子どもから女性、高齢者、就職に向けてパソコンを体験したい働く世代の人を対象に、パソコンやインターネットのよろず相談対応を行った。



(6) 地域学習活動(ネット)

ネットメディアを活用した地域における学習活動・情報発信活動等の実施

・[「館報まっさき」の Web 配信](#)

平成 24 年 9 月より継続

毎月末崎地区で刊行されている「館報まっさき」を紙での配布と同時に Web サイト上でデジタルデータとして公開するようにした。また、2011 年 8 月号からのアーカイブ(平成 25 年 3 月末時点で計 20 号分)を行うことで、バックナンバーを見られるようにした。

・[公民館施設予約状況の Web 公開](#)

平成 24 年 9 月より継続

大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)の施設(体育館・和室・会議室・研修室・調理室)の利用予約状況は、従来紙台帳で管理され、利用者からの確認も電話での対応か、公民館入口掲示板を見てもらうしかなかった。そこで、これら情報を Web サイト上から閲覧できるように改善した。公民館スタッフが予約状況を Web で逐次更新できるようにすることで、予約状況の管理の効率化と利便性の向上を計った。

・「竹とんぼ教室の準備と進め方」に関する教材ビデオ(準備編)の作成

平成 25 年 2 月 9 日

平成 25 年 3 月 6 日

著作:大船渡市「デジタル公民館まっさき」運営協議会

協力:どこ竹 武蔵野三鷹

制作:株式会社メディアリンク

世代を越えて楽しめるひねり竹とんぼの作り方や竹とんぼ教室の運営の行い方に関して、被災地竹とんぼ講師を交え内容を話し合うことで、これら内容を映像教材としてまとめた。また、2 月、3 月の竹とんぼリーダーフォローアップ研修参加者に DVD で配布を行った。

[「竹とんぼ教室の準備と進め方\(準備編\)」](#)

[「竹とんぼ教室の準備と進め方\(進め方編\)」](#)

・[「稲田貴久 トーク&ライブ」](#)のユーストリーム配信

平成 25 年 3 月 10 日(日) 10:00～12:00

場所:大船渡市末崎地区公民館(ふるさとセンター)

スタッフ参加者:5名

会場参加者:30名、ユー 스트リーム視聴者 60名

地元の「チームこもれび心のケア気仙有志の会」「末崎地区サポートセンター『おたすけ』」「社会福祉法人典人会」の活動を支援するかたちで、当日のコンサートの様子を撮影およびユー ストリームによりライブ配信した。



(7) ボランティアスタッフ活動参加者の告知、情報共有

デジタル公民館活動のボランティアスタッフ参加者は、NPO 事業サポートセンターの復興支援 IT ボランティアの公募、「復興支援 IT ボランティア関係者グループ」フェイスブックで募集していたが、ボランティアスタッフ参加が常態化した為「デジタル公民館まっさきPJ」フェイスブックを設けて、活動に関する情報を共有した。

(8) 被災地住民への告知

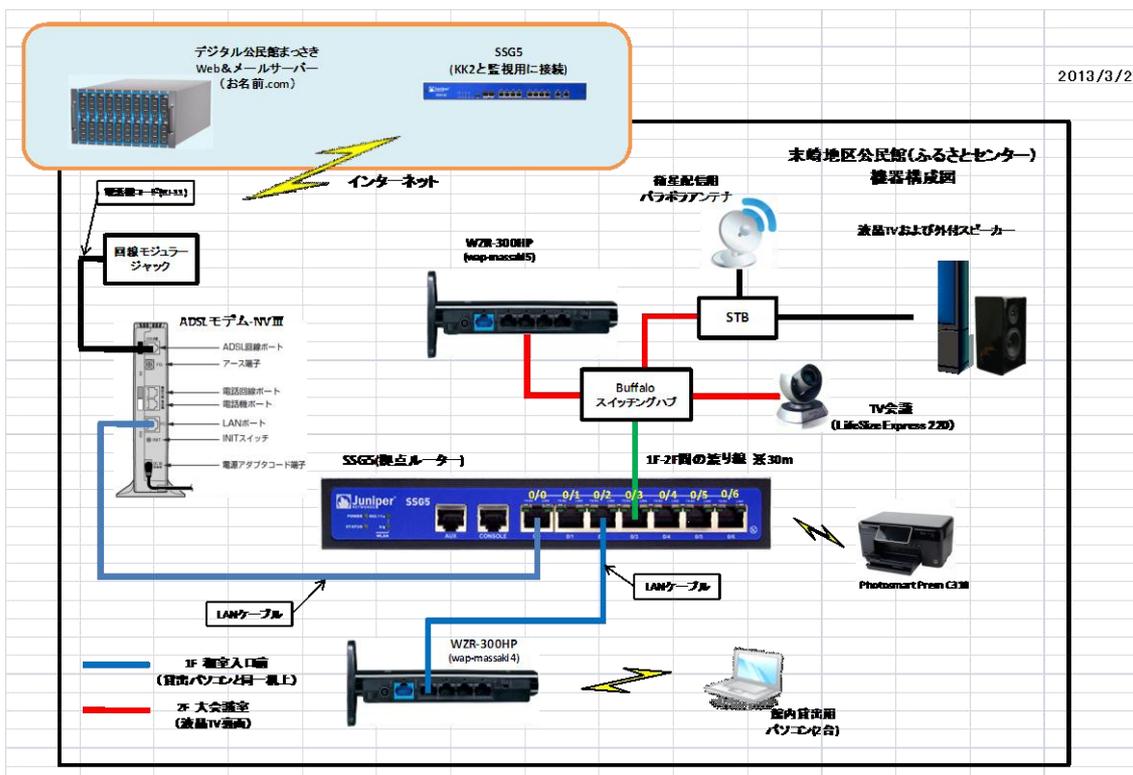
被災地住民への告知については、公民館でのポスター掲示やチラシ配布、毎月 20 日発行全戸配布の(約 1600 部)公民館の機関誌「館報まっさき」に、「デジタル公民館活動」「IT ボランティア活動」「霞が関からの生中継番組」の案内を毎月掲載していただいた。館報まっさきの紙面はデジタル化してネット上にも公開し、末崎町以外の大船渡市の住民も、活動日をネットで確認して参加するようになった。このほか、仮設住宅支援員事務所を通じて、末崎町内の 5 つの仮設住宅団地集会所に案内チラシを配布していただいた。

4 デジタル公民館ネット環境の整備

(1) インターネット環境

電話・FAX 兼用電話一本しか無かった末崎地区公民館に以下環境を整備しました。

- ①ADSL 回線を引き無線 LAN-AP を設置しインターネット利用環境整備
- ②住民が自由に使える常設 PC×2 台を共有スペースに設置
(有害サイトフィルター、盗難防止チェーン取付け)



(2) ライブ受講、オンデマンド学習、コミュニケーション環境整備

- ③通信衛星 JCSAT-2A を捕捉する CS 受信アンテナ設置
- ④ライブ受信並びにオンデマンド視聴用 NICE-NET サーバ(STB)設置
- ⑤既設 TV の音声再生を補強するライブ受信用スピーカーを設置
- ⑥TV 会議装置を接続し Massaki-KK² 間 TV 会議システム整備

(3) WEB サーバ/WEB メール構築

- ⑦IPS 上で Word Press による WEB サイト構築(URL: <http://www.massaki.jp/>)
- ⑧IPS 上で WEB メール構築(****_****@massaki.jp)

(4) デジタル公民館ネット環境の運用

⑨末崎にネットワーク管理者不在のため KK²-Masaki を VPN 接続し KK² 側から遠隔監視

- ・無線 LAN の正常性確認と利用状況把握
- ・常設 PC の正常性確認と利用時間把握
- ・ルーター、AP、STB、TV 会議の遠隔監視・オペレーション
- ・WEB サーバ/WEB メールの正常性確認・遠隔監視・オペレーション

※ネット環境運用を被災地で実施できる体制には至らず、H25 年度も WEB サイトコーディネーターによる運用支援を継続します。

※「館報まっさき」の Web 配信、公民館施設予約状況の Web 公開については、ふるさとセンター公民館主事に技術移転しました。

⑩末崎地区公民館と霞が関ナレッジスクエアで双方向会議ができるようテレビ会議システムで結び、運営協議会の委員会や被災地活動の事前研修会、会議等を実施しました。

⑪末崎地区公民館で住民に提供するパソコン、プリンター、通信カード等は H23 年度より実施している復興支援 IT ボランティア活動で、NPO 事業サポートセンター等から提供されたものを引き続き活用するとともに、12 月以降は、認定 NPO 法人国境なき子どもたちから末崎地区公民館に寄贈された中古パソコン 22 台のうち、再利用可能な状態の 12 台について被災地活動時に OS、アプリケーションなどを整備して活用しました。

※しかし H26 年 4 月 OS Windows XP のサポート終了が迫っており、これら資源が一挙に使えなくなることへの対応が急務となります。

(5) 公民館サービス、活動等のデジタル化と公開

- ・毎月 20 日に発行され、全戸配布される「館報まっさき」のデジタル化によるサイトでの公開。
- ・公民館の施設の予約状況の公開

これら従来の公民館機能を情報発信することで、末崎地区にお住まいの方はもちろん、地域外の人や他府県の方にも公民館の情報が届くようになり、遠隔地からも施設利用の問い合わせが来るようになった。

(6) デジタル公民館活動の情報発信

毎月実施される被災地活動の概要や取材した地域情報など、末崎地区のコミュニティづくりに向けた動きを全国に発信することにより、末崎地区を離れて暮らす人々と末崎の交流のハブとなった。

(7) コミュニティ再生に取り組む人たちとの結節点

デジタル公民館活動を通じて、末崎地区のコミュニティ再生に取り組んでいる方々とながりができ、様々な取り組みを情報発信することで、末崎地区のコミュニティづくりに向けた機運の向上の支援をすることができた。

5 被災地住民とボランティアが世代を超えてコミュニケーション

(1) 支援でなく共に考え共に学ぶ

「学び」をテーマにした毎月一回二日間程度の短期派遣型ボランティアが、切迫する被災地の復興や住民の暮らしの向上に果たして役に立つのだろうか、大きな懸念を抱えながら活動が始まりました。委員、コーディネータの英知を集め活動内容を吟味し、コツコツ活動を継続する中で徐々にではあるが、確かな手応えを感じることができました。

それは、時々現れるよそ者による“学び”の支援ではなく、よそ者が被災地住民と共に考え共に学ぶというスタンスを持ち、

- ・ワーキンググループ活動を進める
 - ・リアルな研修会・講習会を企画運営する
 - ・地域学習活動もパソコン講座という形式でなく一人ひとりの困りごとに寄り添うスタイルを続ける
- ことでコミュニケーションを深めることができました。

また「学生」「社会人」「シニア」という三世代のボランティアが、被災地の「子供」「働き盛り」「シニア」といった各世代の住民の方々に対して学びというよりも、

- ・大学生はゲームがしたくて集まってくる子どもたちとサッカーや運動も楽しみ
 - ・社会人は地域の複雑な人間関係を気にせず働く現場を訪ね一人一人とつながりを築き
 - ・シニアを中心とした竹とんぼ教室リーダー養成活動により地域の人同士のつながりも作りました
- よそ者ならではの媒介者の役割も少しではあるが果たし、世代を超えたコミュニケーションを構築し地域のリーダー世話人の方々とも、少しではあるが信頼関係を築くことができました。

(2) 地域づくりに向けた竹とんぼ教室講師・リーダーグループの育成

地域再生は生活を支え雇用を拡大する総合的なテーマですが、高齢化が進む被災地ではシニアに出番を用意し、アクティブシニアとしてリーダーシップを発揮していただくことが重要です。堀池喜一郎委員には、シニアが地域参加や地域貢献するうえで有効なプログラムの企画・準備・講師などを担当していただき、被災地には週末2日間ずつ5回訪問していただきました。「ネット社会と地域の暮らし」「竹とんぼ教室」「竹とんぼ教室リーダー育成講座」「コミュニティビジネスコンサル」などに取り組んでいただき、延べ70人程度の子どもからシニアまで幅広い世代に接していただき、竹とんぼ教室認定講師5人を育成いただきました。これは計画通りの活動というよりも、被災地のシニアが話し合い交流を通じて試行錯誤しながら、自力で始めることは何かを見つけ出す作業でした。自分たちで竹とんぼ教室を実施できるよう、竹とんぼ教室の準備と進め方を自学自習できるビデオ教材も開発しました。認定講師5人を中心にICT(特にソーシャルメディア)を活用し、地域再生に励むことになるきっかけ作りができたというのが現在のステータスです。

数を重ねる中で、「被災地のシニアはとてつもない人生経験や知恵を持つ人たちであり、教えてもらうことが多くなった。」というのが堀池委員のご感想です。H25 年度、地域人材の育成、親子を対象にした竹とんぼ教室の開催等フォローを継続します。

(3) 学び主体はボランティアスタッフ

被災地での研修会で豊重哲郎委員はボランティアメンバーに、“ボランティアの意味”を問いましたが、答えは勿論“奉仕”ではなく“自主的”です。持続可能なボランティア活動とは自主的に被災地を訪れ、目の前の課題や人との出会いをアクティブに受け止め全力で取り組み、感動と感謝を知る。更なる感動と感謝を求め、継続的に参加する正のループを作ることではないでしょうか。“学びを通じた被災地のコミュニティの再生支援”というテーマではありますが、“学び”の主体は実は被災地の方々というよりむしろボランティアスタッフでありました。

(4) 末崎町は養殖わかめ発祥の地であることから、WG「わかめゼミナール」の活動で、末崎地区の地場産業・伝統産業であり、生活文化や地域の風物詩でもある、わかめをテーマにした地域情報の学習、取材、とりまとめと情報発信に取り組みました。震災前より末崎中学校では総合的な学習の時間を活用して、全国唯一、養殖わかめの生産、加工、販売、環境づくりを学び、後輩たちや全国に伝える体験学習に取り組んでおり注目されていますが、3.11 以降わかめ生産者が減少したことも事実です。地域の生産者と共にもっさきわかめの魅力を発信し、地域での加工食品の事業化といった取り組みに繋げることが望まれます。

(5) 地域再生リーダーの育成

末崎地区地域(集落)公民館長や世話役の方々を対象に、地域再生に向けた交流会を開催し、コミュニティ再生を実行できるリーダー育成を進めました。豊重哲郎委員は「やねだん豊重哲郎さんと私たちの“まっさき”の未来を語る会」で被災地に入り、地域再生に向け「オリジナル商品開発」「自主財源確保」「補欠の居ない集落運営」「ウーマンパワーは日本の底力」といった取組課題を明らかにしました。参加者から寄せられたアンケートでは、
「お話を直接聞く機会にめぐり合えてとても良かった。豊重さんの地域再生の考え方を、これからの地域復興(私は新興と思っている)で活かしていきたい。」「豊重さんの迫力ある話し方、人の気持を引きつける話術には感動し、リーダーとしての資質、能力のなさを痛感させられました。“まっさき”の未来を語る前に自分を見つめ直さなければなりません。」

といった決意や反応が寄せられ、豊重委員出演地域再生ビデオ教材が参加者に配布されました。

- ①「エキスパート・スタジオ」ソーシャルアントレプレナー 豊重哲郎さん
- ②「地域再生からニッポン再生」豊重哲郎さんへの 10 の質問

6 被災地の課題

(1) 公助当てにできず

3.11 東日本大震災発災から数ヶ月後、人口約 4,500 人、1,600 世帯中 650 世帯が津波で流失した大船渡市末崎地区の避難所だった古い公民館を訪ね驚きました。情報インフラは電話線 1 本でインターネット環境無し、地域の名譽職的な公民館長と傘下の集落公民館長で館長不在時をカバーする主事、朝晩の鍵開閉とお掃除担当の女性、常勤者の居ないスタッフ体制でした。

市町村合併で大船渡市となったこの地区に行政の出先機関は無く、中心的施設である公民館にも行政スタッフは不在、正に公助当てにできずだったのです。幸いに自立的コミュニティ形成を日頃から心がけてきた公民館長を中心に、まずは自分達で何とかしよう、仲間で助け合おう、というコミュニティが培われていました。そのコミュニティに対して直に出来ることとして、ADSL 回線によるネット環境を整備し、住民が自由に使えるパソコンを設置、CS アンテナを設置して KK² プログラムを受信、月一回ボランティアスタッフが訪問する活動がスタートした訳です。

但しご高齢の公民館長(コミュニティリーダー)に、行政も支援団体も頼りきっているのがこの地域の明らかリスクです。行政に頼らない地域として復興発展していくには、次世代のコミュニティリーダーの育成が最大の課題です。

(2) 運用教育が伴わないハードばかりの復興

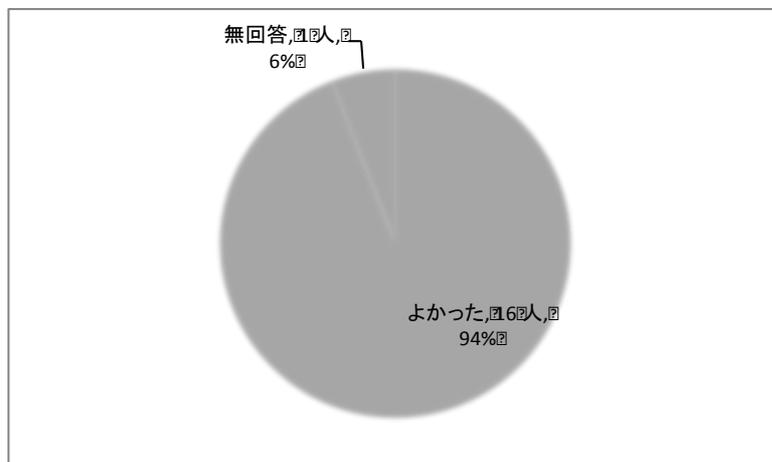
H25年 2 月末崎地区公民館事務室の光景には驚きました。防災行政無線と思われる大きなサーバ装置、衛星電話、光回線が突然設置されていましたが、公民館スタッフには、何の為に付けたのか？誰が操作するのか？どう使うのか？等の説明が無く、サーバ装置と公民館スタッフが狭いスペースで同居できるか？という物理的問題が発生していました。常勤者の居ない老朽化した施設に、高度なシステムが考慮されずに導入されています。公助によるシステムインフラ、自助共助の上に立つ運営体制、自治体職員・住民の危機管理教育が、地域毎にマネージメントされ三位一体で推進されることが重要です。有事の際公助がしばらく及ばない間、地域住民の自助共助からなる「市民救助隊(Community First Responder)」が機能するようなコミュニティ作りが重要な課題です。

(3) パソコンよろず相談の継続

3月のPC講習会(パソコンよろず相談)への参加者に伺ったアンケート結果の一部です。

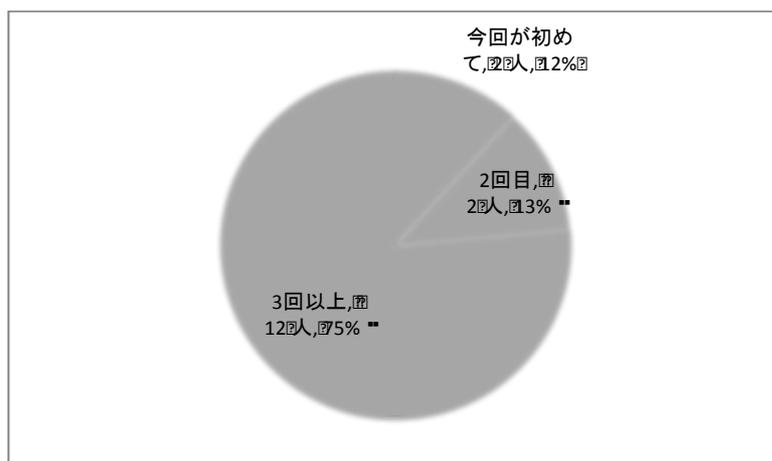
PC講習会への感想(有効回答数 17)

| | 回答数 |
|-----------|------|
| よかった | 16 人 |
| ややよかった | 0 人 |
| どちらでもない | 0 人 |
| あまりよくなかった | 0 人 |
| よくなかった | 0 人 |
| 無回答 | 1 人 |



PC講習会への参加回数(有効回答数 17)

| 参加回数 | 回答数 |
|--------|------|
| 今回が初めて | 2 人 |
| 2 回目 | 2 人 |
| 3 回以上 | 13 人 |
| 無回答 | 0 人 |



興味のある項目やPC講習会へのご要望を自由にお書きください。(2013年3月回収分)

- ・ 今回で最後なののがとっても寂しいです。これからも続けて欲しいと願っています。
- ・ 2ヶ月に1回はPC講習会をお願いしたい。
- ・ パワーポイントを学習したい。
- ・ デジカメ写真の整理、ダウンロード等のインターネットを利用した学習。
- ・ デジカメ写真をエクセルにアルバムとして作ること。 ※写真をエクセルに直接コピーできないので、パワーポイントを通じめんどうなやり方をやっている。
- ・ パワーポイントを勉強したいです。エクセルを覚えたいと思います。

パソコンよろず相談活動等を通じて残念ながら、末崎地区において自前で被災者のPC講習会(パソコンよろず相談)を行える地域人材の発掘・育成までは至りませんでした。毎回、数名活動に参

加してくれたシニアネットリアス・大船渡による住民向けパソコン講習会が行われるたほか、12月の現地活動時に支援要請があり、1月活動時にITボランティア活動の一環として出張し会員40名に動画講座を行ったシニアネット高田からも、2、3月の末崎地区公民館の活動に参加者が出る等、地域IT人材づくりに向けたきっかけや関係づくりは一定程度できたのではないだろうか。被災地住民のご期待に応えるため、H25年度も、リアルなボランティアサポートとネットによる遠隔からのコミュニケーションを連動し、共に考え共に学ぶ“デジタル公民館まっさき”活動を継続し、「コミュニケーション充実」と「地域再生」を応援致します。

7 今後の展望

(1) 仮設住宅集会場でのインターネット環境整備

H25年1月よりNTT東日本の光回線サービスがプロバイダー費用含めて月額4,000円弱でこの地区に提供されるようになりましたが、加入世帯は非常に少ないようです。ふるさとセンター設置PC2台の利用も引き続き多く、被災世帯毎にPCを購入しこの費用を負担することは厳しく、普及が進まないものと推察できます。仮設住宅集会場に上記回線を敷設し、利用希望する世帯にLAN配線を行う支援が必要と判断しH25年度できるところから実施します。

(2) 公助採択に拘わらず、シニアに易しい“デジタル公民館まっさき”を継続します

約半年の活動で、地域再生のスタートラインにたどりついたというのが率直な印象です。公助採択の有無に拘わらず、下図のようなスキームを維持し、「高齢者の自立による地域再生」を目的とし共に考え、good practiceに学ぶ事業を継続してまいります。good practiceの視点は、

- ①アイデアあふれるチャレンジで限界集落から脱却を図る
- ②企業人時代の経験を活かし、地域の人々と共に新たな活動に挑戦する
- ③介護・福祉、地域包括ケアなどの切り口での地域の課題解決に挑戦する
- ④地域の生産者と共に地域の魅力を発信し事業化を推進する

等です。

高齢者の自立による地域再生

地域情報発信力強化

情報活用型市民育成

シニアに易しい
デジタル公民館まっさき



18地域公民館

住民 4,461人
世帯 1,516世帯
全半壊 757戸

末崎地区公民館

末崎に関心ある人



全世界の末崎出身者

| | | | | |
|---|----------------------------------|---|-----------------------------------|--------------------------|
|  霞が関 ナレッジ スクエア 民設民営の公民館 KK²「エキスパート・スタジオ」 「復興部門」プロデューサー 角田美紗季さん | | | | |
| ZPO事業サポートセンター 学生社会人シニアで構成する 復興支援ニボランティア派遣 | ナルク 高齢者の自立・奉仕・助け合い 高齢者孤立防止 | 好齢ビジネスパートナーズ 地域世代間交流促進 成果あるWEB/BLOG | やねだん 全員参加の地域再生 行政に頼らない地域づくり | いきいきネットとくしま 情報活用型市民育成 |
| 池本 修悟 | 高畑 敬一 | 堀池 喜一郎 | 豊重 哲郎 | 吉田 敦也 |

シニアに易しい「デジタル公民館まっさき」
地域連携体制図

今年度ご支援いただきました末崎の皆様、ご指導ご支援いただきました委員、コーディネータ、ボランティアスタッフの皆さまのご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

平成 24 年度 文部科学省
学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業 報告書

発行：2013 年 3 月 29 日

作成者：大船渡市“デジタル公民館”まっさき 運営協議会

連絡先：財団法人高度映像情報センター（AVCC）霞が関ナレッジスクエア

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 3-2-1 霞が関コモンゲート 西館奥 エスカ
レータ上る

電話：03-3288-1921 FAX：03-5157-9225

URL：<http://www.kk2.ne.jp>

末崎地区公民館（ふるさとセンター）

〒022-0001 岩手県大船渡市末崎町字平林 81

電話：0192-29-2955

URL：<http://www.massaki.jp>